

元気いっぱい演舞を披露する大学生(28日午後、高知市の中央公園)



学生よさこい 威勢良く

高知市 4チーム130人交流祭

県内の学生よさこいチームによる「土佐学生よさこい交流祭2020」が28日、高知市の中央公園で開かれた。4チームの約130人が「やっと人前で踊れる」「きょうで最後の演舞や」と気持ちの入った踊りを披露。最後は全員の総踊りで観客を沸かせた。

昨夏に県内外の学生チームを招いて初開催した「土佐学生よさこい大会」の実行委員会が、新型コロナウイルス禍で中止になった今夏の同大会に代わり企画。県内チームに声を掛けて実現した。毎年メンバーが入れ替わる学生チームとあって、同じメンバーで披露はこれが最後だ。僕らの夏(よさこい)に、来年は無いのだ!と銘打って開催した。

この日、会場に集ったのは旅鯨人、炎、粹恋、叢雲と、いずれも高知大の4チーム。同大4年で同実行委員長の中野佐保さんが「学生たちの熱い思いや演舞を見て」と観客にあいさつ。各チームが今夏のよさこい祭りに向けて作った踊りや、かつての振り付けを堂々と披露し、力強く軽やかに鳴子の音を響かせた。

叢雲のメンバーで2年の喜枝航大さんは「先輩と一緒に踊るのはこれで最後。こういう機会は本当にありがたい」としみり。旅鯨人メンバーの同大4年、上津原梨乃さんは「よさこいのために広島から進学した。この4年間も、きょうの演舞も一瞬。高知に来て良かった。輝く笑顔を見せていた。」

(河本真澄)